

平成31年度

長崎県学力調査

中学校第2学年 国語

注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから15ページまであります。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 解答は指示された解答欄ほんに記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 5 印刷がはっきりしなくて読めない場合は、静かに手をあげてください。ただし、問題の内容に関する質問には答えられません。
- 6 解答時間は45分間です。
- 7 解答用紙には、「組」、「番号」、「氏名」を書く所があります。まちがいのないように書いてください。
- 8 解答用紙には、「補助票」があります。そこには何も記入しないでください。

長崎県教育委員会

1

江戸町中学校二年一組の鈴木さんは、朝の学級会の「一分間スピーチ」で、本の紹介を行いました。
そこで【メモ1】に自分の考えを書き出し、それを基に【メモ2】で発表の構成を考えて、一分間スピーチ【実際のスピーチの内容】を行いました。次の【メモ1】・【メモ2】・【実際のスピーチの内容】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【メモ1】

① 紹介したい本：「吾輩は猫である」(夏目漱石)

A 私が読んだきっかけ：姉の紹介(姉も猫が好き)

② おすすめポイント：猫の視点で語られている

猫が皮肉な目で人間を見ている

猫が人間の食べ物を食べる

③ ぜひ読んでほしい人：動物好きの人

人間観察が好きな人

④ 話すとき興味をもってもらおう話題

：動物は好きですか？

↓家で飼っている猫の話

【メモ2】

発表の構成

はじめ

中

終わり

はじめ

皆さんは、好きな動物はいますか？

私は、猫が大好きです。わが家では、猫を二匹飼っています。

一匹は、全身真っ黒の「クロ」、もう一匹は、「マル」という名前前で、茶色と白のしま模様です。別々にもらってきたのですが、兄弟のように仲の良い二匹です。

さて、これから私が紹介する本にも、猫が出てくるのです。

本のタイトルは「吾輩は猫である」、作者は「夏目漱石」です。タイトルや作者名を、聞いたことがある人はいますか？ 長くて難しい言葉もあるので、実際読んでこ
とがあるという人は、少ないのではないかと思います。

A

中

「吾輩は猫である。名前はまだない。」という一文から始まるこの話は、猫が、人間の世界を語る形式で進んでいきます。

自分たちとは違う人間の行動を、「変だなあ」と思いながら少し皮肉な目で見ている猫ですが、人間の生活や文化に興味をもち、行動に移します。特に印象に残ったのは、もちやたくあんなど、いろいろな人間の食べ物に挑戦するところです。このような猫の行動は、ラストシーンにもつながってくるので、注目ポイントです。

動物好きな人には特におすすめです。また、実は自分も人間観察が好きだ、という人は、この猫の行動や考え方を、そのとおりだと感じるかもしれません。 図書室の日本文学コーナーにありますので、ぜひ、読んでみてください。

終わり



一 【実際のスピーチの内容】で、鈴木さんは、発表の出だしを「問いかけ」で始めています。その理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 動物好きの人がどれくらいいるか知り、この後の話の展開を考えるため。
- 2 聞き手にも発表させ、その場でやりとりをしながら体験談を教え合うため。
- 3 多くの人が興味をもちそうな話題から始め、聞き手の関心を引きつけるため。
- 4 聞き手の反応を見ながら話題を変え、できるだけ分かりやすい内容にするため。

二 鈴木さんは、【メモ1】の——Aの内容を、【実際のスピーチの内容】では A の部分で話しました。——Aの言葉を使って、A に入る一文を書きなさい。

三 【実際のスピーチの内容】を基に、【メモ1】の①から④を、【メモ2】のはじめ、中、終わりの構成に分けなさい。解答欄には、番号のみ記入すること。

四 【実際のスピーチの内容】の構成には、どのような特徴がありますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 作者の紹介を中心に話を展開しながら、最後にこの本を読むことをすすめている。
- 2 本の内容に関連する日常生活の話題から始め、そのつながりで本題に入っている。
- 3 最初にタイトルや作者名、あらすじなどの本に関する基本的な情報を提示している。
- 4 最初に本の具体的な内容を説明し、最後にもう一度その内容をまとめて確認している。

五 「そのとおりだと感じる」という意味の言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 同情 2 了解りようかい 3 感心 4 共感

六 鈴木さんは発表の後、担任の先生から、次のようなアドバイスをいただきました。

アドバイスの中の **B** に入る言葉として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

鈴木さんは、できるだけ多くの人に読んでほしいという思いを込めて、自分の好きな作品の特徴やおもしろさを分かりやすく伝えていましたね。私も改めて読んでみたいと思いました。

ただし、説明の中の「**長くて難しい言葉もあるので、実際読んだことがあるという人は、少ないのではないかと思います。**」という言葉は、**B** ですので、前向きな言葉に変えたほうがよいのではないですか。

- 1 読んでみたいという気持ちをおさえてしまう
2 自分なりに挑戦しようという思いを強くする
3 実際に読んだことのある人の数を知りたくなる
4 夏目漱石の別の作品に興味が移ってしまう



江戸町中学校の二年三組では、国語の授業で、「学級の皆に読んでもらいたい小説」について、その魅力をポスターにまとめ、発表する学習を行っています。Aさんのグループは、芥川龍之介の「魔術」という作品を選び、グループで協議しながら、その魅力をまとめています。Aさんのグループが選んだ次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある雨の夜、「私」は、名高い魔術師ハッサン・カンに学んだ、ミスラ君の洋館を訪ねた。大森（現在の東京都大田区）にあるその洋館で「私」は、ミスラ君が披露する不思議な魔術を目の前にして、声も出ないほど驚くのだった。

「いや、かねがね評判はうかがっていましたが、あなたのお使いなさる魔術が、これほど不思議なものだろうとは、実際、思いもありませんでした。ところで、私のような人間にも、使って使えないことのないというのは、御冗談ではないのですか。」

「使えますとも。誰にでも造作なく使えます。ただ——と言いかけてミスラ君はじつと私の顔を眺めながら、いつになく真面目な①口調になつて、「ただ、欲のある人間には使えません。ハッサン・カンの魔術を習おうと思ったら、まず欲を捨てることです。あなたにはそれができますか。」

「できるつもりです。」
私はこう答えましたが、なんとなく不安な気もしたので、すぐにまた後から言葉を添えました。

「魔術さえ教えていただければ。」
それでもミスラ君は疑わしそうな目つきを見せましたが、さすがにこの上念を押すのはぶしつけだとも思ったのでしよう。やがて大様にうなずきながら、

「では教えてあげましょう。が、いくら造作なく使えると言っても、習

うのには暇もかかりますから、今夜は私のところへお泊まりなさい。」
「どうもいろいろ恐れ入ります。」

私は魔術を教えてもらうれしさに、何度もミスラ君へお礼を言いました。が、ミスラ君はそんなことに頓着する気色もなく、静かに椅子から立ち上がると、

「御婆サン。御婆サン。今夜ハ御客様ガ御泊マリニナルカラ、寢床ノ仕度ヲシテオイテオクレ。」

私は胸を躍らしながら、葉巻の灰をはたくのも忘れて、ともに石油ランプの光を②アびた、親切そうなミスラ君の顔を思わずじつと見上げました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

私がミスラ君に魔術を教わってから、ひと月ばかりたった後のことです。これもやはりざあざあ雨の降る晩でしたが、私は銀座のある倶楽部の一室で、五六人の友人と、暖炉の前へ陣取りながら、気軽な雑談にふけていました。

「私」は、友人の求めに忘れて、暖炉の中の燃える石炭を拾い上げ、それを目の前で金貨に変える魔術を披露した。

「何しろたいした魔術を習ったものだ。石炭の火がすぐに金貨になるのだから。」

「これじゃ一週間とたたないうちに、岩崎や三井にも負けられないような金満家になってしまいうだろう。」などと、口々に私の魔術を褒めそやしました。が、私はやはり椅子によりかかったまま、悠然と葉巻の煙を吐いて、

「いや、僕の魔術というやつは、一旦欲心を起こしたら、二度と使うことができないのだ。だからこの金貨にしても、君たちが見てしまった上は、すぐにまた元の暖炉の中へ放りこんでしまおうと思っっている。」

友人たちは私の言葉を聞くと、言い合わせたように、反対し始めました。これだけの大金を元の石炭にしてしまうのは、もったいない話だと言うのです。が、私はミスラ君に約束した手前もありますから、どうしても暖炉に放りこむと、剛情に友人たちと争いました。すると、その友人たちの中でも、一番狡猾だという評判のあるのが、鼻の先で、せせら笑いながら、

「君はこの金貨を元の石炭にしようと言う。僕たちはまたしたくないと言う。それじゃいつまでたつたところで、議論が干ないのは当たり前だろう。そこで僕が思うには、この金貨を元手にして、君が僕たちとカルタをするのだ。そうしてもし君が勝つたなら、石炭にするのも何にするとも、自由に君が始末するがいい。が、もし僕たちが勝つたなら、金貨のまま僕たちへ渡したまえ。そうすればお互いの申し分も立って、至極満足だろうじゃないか。」

それでも私はまだ首を振って、^③ 容易にその申し出しに賛成しようとはしませんでした。ところがその友人は、いよいよあざけるような笑み

を浮かべながら、私とテーブルの上の金貨とをずるそうにじろじろ見比べて、

「君が僕たちとカルタをしないのは、つまりその金貨を僕たちに取られたくないと思うからだろう。それなら魔術を使うために、欲心を捨てたとか何とかいう、せっかくの君の決心も怪しくなってくる訳じゃないか。」

「いや、何も僕は、この金貨が惜しいから石炭にするのじゃない。」

「それならカルタをやりたまえな。」

何度もこういう押し問答を繰り返した後で、とうとう私はその友人の言葉どおり、テーブルの上の金貨を元手に、どうしてもカルタを闘わなければならぬ羽目に立ち至りました。もちろん友人たちは皆大喜びで、すぐにランプを一組取り寄せると、部屋の片隅にあるカルタ机を囲みながら、まだためらいがちな私を早く早くとせき立てるのです。

ですから私も仕方がなく、しばらくの間は友人たちを相手に、嫌々カルタをしていました。が、どういふものか、その夜に^④ カギつて、ふだんは格別カルタ上手でもない私が、うそのようにどんどん勝つのです。するとまた妙なもので、はじめは気のりもなかったのが、だんだん面白くなり始めて、ものの十分とたたないうちに、いつか私は一切を忘れて、熱心にカルタを引き始めました。

友人たちは、元より私から、あの金貨を残らずまき上げるつもりで、わざわざカルタを始めたのですから、こうなると皆あせりにあせって、ほとんど血相さえ変わるかと思うほど、夢中になって勝負を争い出しま

した。が、いくら友人たちが躍起やつきとなっても、私は一度も負けないばかりか、とうとうしまいには、あの金貨とほぼ同じほどの金高だけ、私の方が勝つてしまったじゃありませんか。するとさっきの人の悪い友人が、
へ〜中路〜私の前に、札をつきつけながら、

「さあ、引きたまえ。僕は僕の財産をすっかり賭ける。地面も、家作も、馬も、自動車も、一つ残らず賭けてしまふ。その代わり君はあの金貨のほかにも、今まで君が勝つた金をことごとく賭けるのだ。さあ、引きたまえ。」

私はこの刹那せつなに欲が出ました。テーブルの上に積んである、山のような金貨ばかりか、せつかく私が勝つた金さえ、今度運悪く負けたが最後、皆相手の友人に取られてしまわなければなりません。のみならずこの勝負に勝ちさえすれば、私は向こうの全財産を一度に手へ入れることができるのです。こんな時に使わなければどこに魔術などを教わった、苦心の甲斐かいがあるのでしょうか。そう思うと私は矢も盾もたまらなくなつて、そつと魔術を使いながら、決闘けつとうでもするような勢いで、

「よろしい。まず君から引きたまえ。」

「九。」

「王様。」

私は勝ち誇つた声ほこを挙げながら、まっ青になつた相手の眼の前へ、引き当てる札を出して見ました。すると不思議にもそのカルタの王様が、まるで魂たましいがはいつたように、冠かんむりをかぶつた頭をもたげて、ひよいと札の外へ体を出すと、行儀ぎよよく剣けんを持つたまま、にやりと気味の悪い微笑びしょうを

浮かべて、

「御婆サン。御婆サン。御客様ハ御帰リニナルソウダカラ、寢床ノ仕度ハシナクテモイヨ。」

と、聞き覚えのある声で言うのです。と思うと、どういう訳か、窓の外に降る雨脚あまあしまでが、急にまたあの大森の竹やぶにしぶくような、寂しいさびざんざん降りの音を立て始めました。

ふと気がついてあたりを見まわすと、私はまだうす暗い石油ランプの光をあびながら、まるであのカルタの王様のような微笑を浮かべているミスラ君と向かい合つて座すわつていたのです。

私が指の間に挟はさんだ葉巻の灰さえ、やはり落ちずにたまっているところを見ても、私がひと月ばかりたつたと思つたのは、ほんの二三分の間に見た、夢だつたのに違ちがひありません。けれどもその二三分の短い間に、私がハッサン・カンの魔術の秘法を習う資格のない人間だということは、私自身にもミスラ君にも、明らかになつてしまつたのです。私は恥はずかしそうに頭を下げたまま、しばらくは口もきけませんでした。

「私の魔術を使おうと思つたら、まず欲を捨てなければなりません。あなたはそれだけの修業ができていないのです。」

ミスラ君は気の毒そうな目つきをしながら、縁ふちへ赤く花模様を織り出したテーブル掛けの上に肘ひじをついて、静かにこう私をたしなめました。

(芥川龍之介「魔術」による)

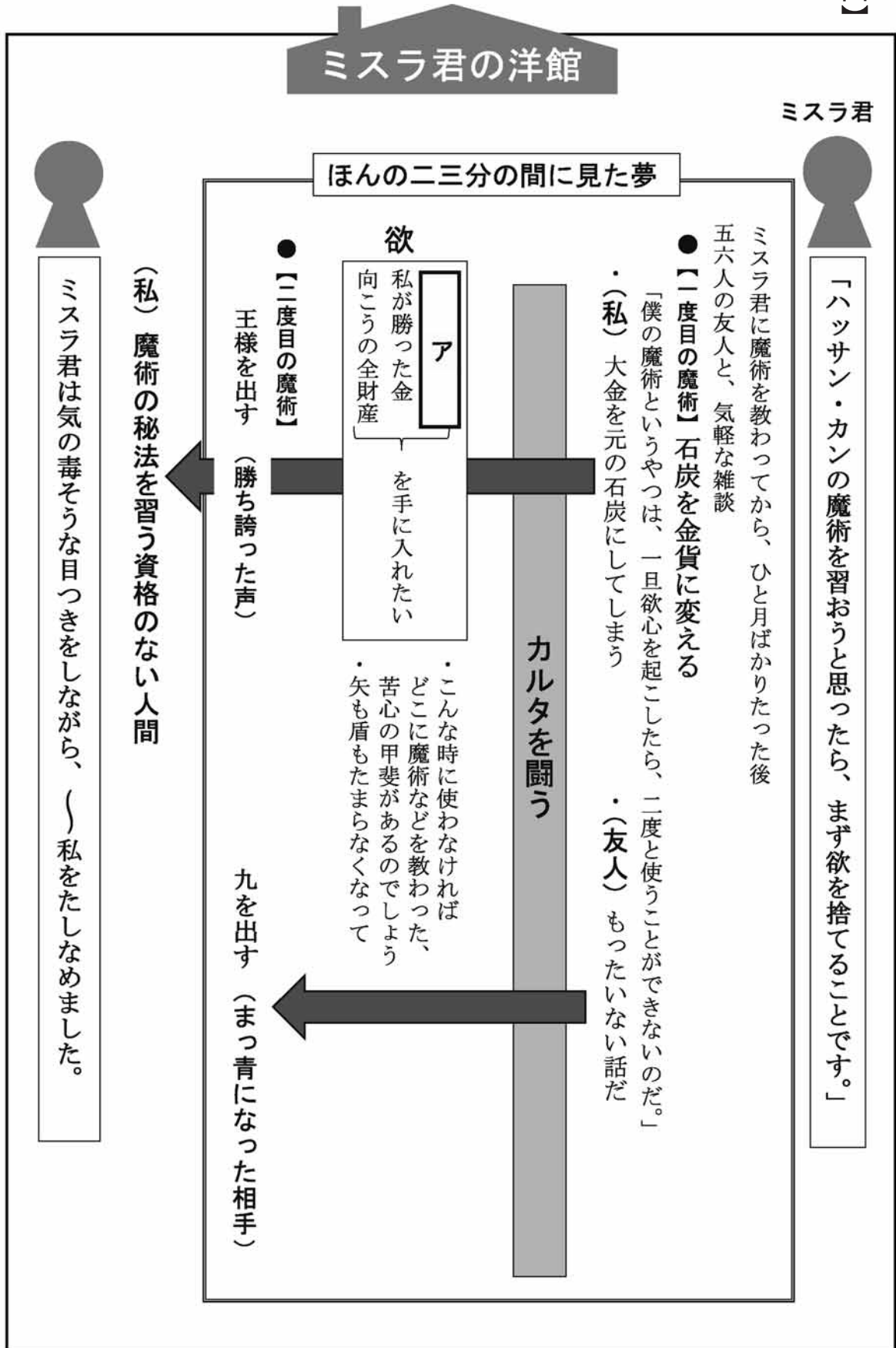
(注)

- ・造作なく…簡単に。手間がかからず。
- ・頓着…気にすること。
- ・倶楽部…明治、大正期の社交場をこう呼んだ。
- ・岩崎や三井…政治、経済に大きな影響を与えた実業家。
えいぎょう
- ・狡猾…悪がしこいこと。
- ・議論が干ない…議論が終わらない。
- ・カルタ…ここではトランプのゲームのこと。
- ・刹那…きわめて短い時間。



一 Aさんのグループでは、「魔術」の内容を、次のような【図】にまとめました。この【図】について、あとの問いに答えなさい。

【図】



- (1) Aさんのグループでは、文章の内容をまとめた【図】を基に、話し合いを行っています。次の【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの様子】

Aさん 二度目の魔術を使おうと思ったのはなぜかな。

Bさん 友人たちの言葉を聞いて、欲が出てきたからだと思うよ。

Cさん このときの「私」は、どんな気持ちだったのだろうね。

Aさん 「矢も盾もたまらず」は辞書で調べてみたら、「矢に攻められても盾で防ごうとしても止められないことから、**イ**とあったよ。」

Bさん それほど「私」の欲が大きくなっていったんだね。

Cさん 話の最後で、「私は恥ずかしそうに頭を下げたまま、しばらくは口もきけませんでした」とあるけれど、なぜそれほど恥ずかしかったのかな。

Aさん ハッサン・カンの魔術の秘法を習う **ウ** (二字) のない人間だということが明らかになったからだと思うよ。

Cさん 「ミスラ君」は「気の毒そうな目つき」で「私」を見ていたね。この時、ミスラ君は、どんな気持ちだったのだろう。

(あ) 「欲」とありますが、このとき「私」が手に入れたかったものは何ですか。【図】の **ア** 欄にあてはまるよう「魔術」本文から、七字で抜き出しなさい。

(い) 「矢も盾もたまらず」について、【話し合いの様子】の **イ** に入れるのに最も適切な言葉を、次の1から3までの中から一つ選びなさい。

- 1 優しい感情を押し殺している様子 2 自分の気持ちが抑えられない様子 3 失敗で投げやりになっている様子

(う) 【話し合いの様子】の **ウ** に入る語句を、【図】の中から二字で抜き出しなさい。

(え) 「この時、ミスラ君は、どんな気持ちだったのだろう。」とありますが、このときのミスラ君の心情として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 「私」が友人たちの前で、恥をかかされたことに心を痛めている。
- 2 魔術をうまく習得できなかった「私」を軽くみてあなどっている。
- 3 欲を捨てようとしても捨てきれない「私」をあわれに思っている。
- 4 カルタに負けて全財産を失った「私」をかわいそうに感じている。

(2) Aさんのグループでは、「魔術」という作品の魅力みりよくをまとめるために、「私」の人物像と、文章の特徴についてまとめることにしました。次の(あ)・(い)に答えなさい。

(あ) 「私」の人物像について、最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 場の状況じょうきょうが変化しても、自分の信念をつらぬく人物
- 2 常に礼儀れいぎを忘れず、相手を思いやる行動をとる人物
- 3 様々な障害しょうがいを乗り越えて、正しい判断をくだす人物
- 4 好奇心こうきょくが強く、相手の要望にこたえようとする人物

(い) 「魔術」という文章の特徴として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 会話文や効果的な比喩ひよ表現が多く用いられており、登場人物の様子が生き生きと伝わってくる。
- 2 色彩しきさいや音についてはたとえを用いて表現することで、明るい様子を想像させようとしている。
- 3 二人の人物が語り手として入れ替わりながら話が進んでいて、複雑な構成になっている。
- 4 文章全体に大きな場面の変化はなく、登場人物の気持ちの変化を中心に構成されている。

二 Aさんのグループでは、「魔術」という文章の中から、日常生活で使ってほしい漢字をいくつか挙げてみました。文章中の線部①～④のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直し、ていねいに書きなさい。文章中の

① 口調

② アびた

③ 容易

④ カギって

問題は、次のページに続きます。

江戸町中学校二年生では、総合的な学習の時間に、「いい町、江戸町！」というスローガンのもと、「他の地域のよさを学ぼう」というテーマで探究活動を行っています。

花子さんたちは、隣町の町づくりに学ぶために、A中学校と情報交換を行いながら交流を重ねていくことになりました。

次に示すのは、学級代表の花子さんが、A中学校の生徒あてに書いた【手紙の下書き】と、手紙に添える【私たちの「江戸町」学習】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【手紙の下書き】

① 新緑の候、皆さまにはますますお元気でお過ごしのことと思います。初めてお手紙を差し上げます。私は江戸町中学校の尾上花子と申します。② このたびA中学校のみなさんが交流を始めることを、生徒一同とても楽しみにしています。これから（ア）、交流を深めていきましょう。

さて、私たちが住む町は、特産品のみかんをアピールするために、町の人々が協力しているいろいろな商品を開発している町です。例えば、給食のこん立になっているみかんパンをはじめ、みかんクッキーもあります。

ぜひ一度、私たちの町に来てください。その時はみんなでご案内します。

これから部活動や行事でいそがしい時期をむかえます。健康管理に気をつけて、③ がんばろう。

五月七日

江戸町中学校 二年一組 生徒一同

A中学校二年一組 様

私たちの「江戸町」学習

1 私たちの「江戸町」調査

- (1) 全体テーマ「いい町、江戸町」
- (2) 第2学年テーマ「他の地域に学ぼう」
- (3) 学年目標：他の地域の町づくりを調べ、いい町の条件を考える
- (4) 活動内容
 - ・江戸町の町づくりを調べる
 - ・他の町の町づくりを調べる
 - ・いい町づくりの条件を考える
 - ・江戸町の町づくりを提案する

2 「活力ある町、江戸町」 (調査結果より)

おいしいみかんが特産

江戸町の山にはみかん農家が多く、長崎県の総収かく量6万トンのうち、約20%に当たる1万2千トンを江戸町で収穫しています。

江戸町あげてみかんアピール

- ・商店街でみかんを商品化
「みかんクッキー」
- ・給食のメニューに取り入れる
「みかんパン」
- ・みかんにちなんだイベント
「少年サッカーみかんカップ」

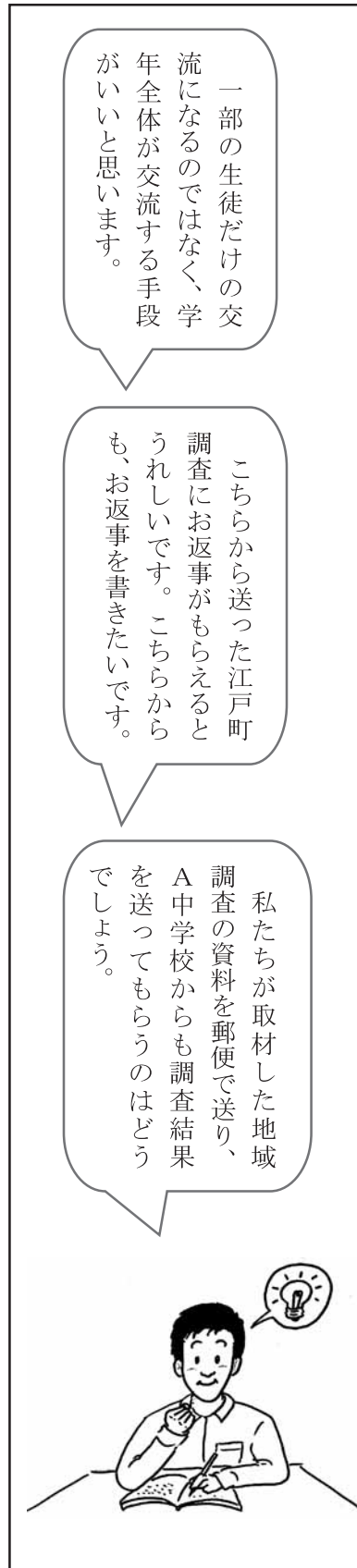
3 まとめと課題

- ・江戸町は、特産品であるみかんを使った商品の開発に力を入れ、町づくりに生かしている。
- ・特産品を生かすアイデアをたくさん出して、江戸町の活性化をめざしている。
- ・町の人々が協力し合って、いい町づくりを進めている。
- ・江戸町をもっといい町にするために、私たちにできることを考えていく。

一 【手紙の下書き】の——線部①「新緑の候」のような言葉を、「時候のあいさつ」（手紙やはがきのはじめに書く「季節をあらわす言葉」）と言います。「新緑の候」と同じ五月ごろの季節を示す言葉を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 大寒の候
- 2 酷暑こくしよの候
- 3 惜春せきしゆんの候
- 4 紅葉の候

二 【手紙の下書き】の（ア）には、これから交流を深めていくための手段を書き入れたいと思います。まず、学級会でアイデアを出してもらったところ、次のような意見が出ました。



一部の生徒だけの交流になるのではなく、学年全体が交流する手段がいいと思います。

こちらから送った江戸町調査にお返事がもらえるとうれしいです。こちらからも、お返事を書きたいです。

私たちが取材した地域調査の資料を郵便で送り、A中学校からも調査結果を送ってもらおうのはどうでしょう。

これらの意見を取り入れたものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 部活動の練習を通して
- 2 手紙のやりとりを通して
- 3 生徒会の交流を中心にして
- 4 状況に応じた手段をとって

三 【手紙の下書き】・【私たちの「江戸町」学習】の推敲（字句や表現をねり直すこと）に関わる次の各問いに答えなさい。

(1) 【手紙の下書き】の——線部②「このたびA中学校のみなさんが交流を始めることを、」の部分について、花子さんは、言葉の使い方が間違っていることに気づき、次のように修正を行いました。次の□イに入れる言葉（ひらがな一字）を書きなさい。

「みなさんが」の「が」を、イに変える。

(2) 【手紙の下書き】を読んだ二年一組の生徒から、——線部③「がんばろう」を書き直すべきだと指摘しってきされました。十字以内で書き直しなさい。

(3) 【私たちの「江戸町」学習】の2の見出し「活力ある町、江戸町」は、初めはおいしい町、江戸町という見出しでしたが、それでは、内容にふさわしくないことに気づき、修正したものです。修正した理由として最も適切なものを、次の1から3までの中から一つ選びなさい。

- 1 「おいしい」のは、江戸町でとれる「みかん」だけではないから。
- 2 「おいしい」という言葉は、「少年サッカー」のイベントに合わないから。
- 3 「おいしい」だけではなく、「みかん」は多くの栄養をとることができるから。

四 江戸町中学校の【私たちの「江戸町」学習】の学習内容について、A中学校の生徒が感想を書くことになりました。あなたが、A中学校の生徒なら、どのような感想を書きますか。次の条件に従って書きなさい。

- 【条件】① 【私たちの「江戸町」学習】の学習内容について、「よいと思うところ」を一つ挙げること。
- ② 「よいと思う」理由を書くこと。

これで、国語の問題は終わりです。

